



# 労働者の「当り前」を取り戻そう



社会が急速に壊れている。その背後にあるのは労働環境の劣悪化である。成果主義が幅を利かせ、果てしなく競争させられ、労働者はモノのように扱われている。膨大な量のノルマや長時間労働・過密労働、パワハラ・セクハラ・マタハラなどで心身ともに追いつめられる労働者。

本来ならこうした問題に立ち向かっていくべき労働組合は、当局と歩調をあわせ労働者を守らなくなり、機能不全に陥って組織率の低迷にあえいでいる。労働者のほうも労働組合を当てにせず、自分の働かされ方がおかしいと思っても、労働組合に相談するということに思い至らない。「自己責任」という言葉で日本中が洗脳され、苦しみもがきつつもあきらめ、流されるままになってし

まっている。

自分もまたそんな一人になっている。苦しかった。このままではもたないと思った。幸いなことに、いろんな仲間が助けてくれた。一緒に考えてくれ、励まされ、力をもらえた。おかげで何とか乗り切り、どうにか毎日をおこなっている。つくづく自分は恵まれていると思う。

本音を出せる、自分の弱さをさらけ出せるまなぶ友の会第一学習会は、労働者が人間としての尊厳を取り戻すことのできる場なのである。この場を拡大し、「労働者はモノではなく人間だ、人間らしく扱え」という、当たり前の要求を取り戻そう。多くの仲間とともに結集しよう。

労働大学企画編集委員 竹内 依子